✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　平成 28 年度気象振興協議会定期総会について
～会長に木本東京大学大気海洋研究所　副所長・教授を選出～

気象事業や気象情報に関わる気象事業者や報道機関などを会員として運営されている気象振興協議会の総会が、7 月 15 日 15 時から千代田区の四季行楽 然において 27 会員 37 名が出席し、行われました。

定期総会では木本会長の挨拶に続き気象庁長官代理として気象庁総務部情報利用推進課の韮澤課長にご挨拶をいただきました。

本年は、役員の改選期にあたることから、本定期総会では役員の改選が行われ、会長には木本昌秀東京大学大気海洋研究所副所長・教授が選出され、幹事には立候補された 9 名全員が選出されました。木本会長から副会長には（一財）日本気象協会理事長　齊藤様、いであ株式会社代表取締役会長　田畑様が、会計監事には気象情報通信（株）代表取締役　橋波様が委嘱されました。

総会議案は、会員の異動報告の承認に続いて、平成 27 年度の事業報告（案）及び収支決算書（案）、平成 28 年度事業計画（案）及び収支予算書（案）について事務局から説明されました。特に今年の事業計画として提案した「今後の気象振興協議会の活動のあり方」については、気象業務を取り巻く状況の変化があり協議会に未加入で気象データを扱う事業者の増加が著しい。これらの状況から会長より忌憚のない意見を、との発言で、活発な審議が行われました。全ての議案は原案通り満場一致で承認されました。

総会議事終了後の記念講演では、木本会長から、「広島の悲劇（平成 26 年 8 月豪雨）を繰り返さないために」と題して講演をいただきました。気象現象の解明と予測には緻密な観測網の展開やリモートセンシング技術、スパコンといわれる資源の活用などより資金が投入できれば、一層の減災や安全安心に繋がっていくとのお話でした。

（振興部）